

第7回国際保健医療協力実務体験研修
第7回看護職海外研修
報告書

2018



グローバル・ヘルスを担う人材の育成を目指して

グローバル化の進展に伴い、国際保健を取り巻く環境は大きく変化しています。途上国における疾病構造はこの20年間で非感染性疾患（NCDs）へと大きくシフトし、これまでの感染症や母子保健等に加えNCDsへの対応も求められるようになりました。こうした中、2016年より持続可能な開発目標（SDGs）がスタートし、上記課題も含む目標の達成に向けた取り組みが世界で実施されているところです。

我が国においては、国際医療協力の実施中核機関である国立国際医療研究センター（NCGM）に対し、これまで以上に期待が高まっており、センター一丸となってこの期待に応えられるよう努めることが一層求められているところです。こうした中、NCGMでは、2016年10月グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）を設置するとともに、2017年10月にグローバルヘルス人材戦略センター（HRC-GH）を設置し、その機能強化に取り組んで参りました。

NCGMでは国際協力に従事する看護師の能力開発に係る2つの研修を、平成24年度より国際医療協力局と看護部が連携して実施しています。これらの研修は、その参加を通じ国際協力の現場で活動するために必要な資質、能力、姿勢等について、実体験として広く学ぶことができるものです。「国際保健医療協力実務体験研修」では、国際医療協力局の看護職に期待される役割や、臨床現場で習得した専門的知識や経験に基づく能力の重要性について、また、「看護職海外研修」では、保健医療の専門知識のみならず法律や制度等幅広い分野の知識を習得し、併せてその国の歴史や文化・価値観を理解することの重要性などについて学びます。これらの研修を通じ、研修員には、知識の習得のみならず、看護職という枠を超え国際医療協力に携わる全ての医療職・公衆衛生専門職が持つべき姿勢についても、実体験として学ぶことが期待されています。

参加への動機やこれまでの経験等、その背景は各研修員により異なりますが、これまで参加された方々からは、憧れていた「国際医療協力」に触れることができたという感動に留まらず、途上国の課題を研修の中で自ら認識・明確化し、その具体的な対応策について考えることができたとの感想が多く寄せられているところです。このように、研修参加によって国際医療協力への関心が高められ、より具体的なイメージを持てるようになることは私達にとっても大きな喜びです。また、これらの課題解決に向け具体的な行動に移られている研修生もいらっしゃることもお聞きしており、今後の我が国の国際医療協力発展の観点からも非常に頼もしく思っています。

NCGMは、2019年WHO総会にて「アラブ首長国連邦保健基金賞」という名誉ある賞を受賞することとなりました。これはNCGMのこれまでの国際医療協力活動に対する国際的評価であると自負しております。しかしながら、目まぐるしく変化する国際社会の状況に応じ国際協力を実施してゆくためには、相手国のニーズを常に把握するとともに、その時代に合った支援を実施してゆく必要があります。国際を冠する唯一のナショナルセンターとしてNCGMに求められる国内の責務を果たしつつ、国際社会からの期待に応え続けていくためには、本研修をより発展させてゆく必要があります。そのためには国際医療協力局と看護部のより一層の連携強化はもとより、互いの更なる進化が求められています。NCGMの存在意義と価値をさらに高めていくという共通の目的を達成するためにも、共に努力していきましょう。

国立国際医療研究センター

国際医療協力局長 日下 英司

国際保健医療分野での活躍を目指して

国立研究開発法人国立国際医療研究センターは、平成27年4月より国立研究開発法人となりました。先端的、学際的、総合的な研究の促進、ならびに新興・再興感染症及びエイズ等の感染症、糖尿病・代謝性疾患、肝炎・免疫疾患、国際保健医療協力を重点分野とし、国際保健の向上に関しこれまで以上の寄与を目指しております。センター理念として「人間の尊厳に基づき、医療・研究・教育・国際協力の分野において、わが国と世界の人々の健康と福祉の増進に貢献する」ことを掲げ、センター職員が一丸となり、医療・研究・教育・国際保健医療協力の分野に取り組んでおります。

センター病院看護部では、このセンター理念のもと、優れたジェネラリストを育成するために多くの院内研修を実施しています。なかでも、センターの重点分野である国際保健医療協力においては、国内外で活躍できる看護職員の育成に力を入れ、段階的な国際看護研修を導入し、国際保健医療協力分野で活躍できるためのキャリアパス支援を行っております。

国際保健医療協力分野で活躍する看護職員に求められるスキルは、看護に必要な基礎知識・技術を基盤とした専門知識のほか、マネジメント力や調整力、コミュニケーション力などです。これらのスキルは、臨床の現場経験から得ることができる貴重なものですが、そこに加え、国際看護研修を受けることで「国際保健医療協力における当センターの役割・活動の理解、国内外での外国人研修に対応できる基礎知識の習得」が得られ、国際保健医療分野で活躍するための基盤づくりを可能にしております。

平成24年度から開始した看護職対象の研修は、日本を代表する国際協力機関であり、約30年の歴史をもつ当センター国際医療協力局との連携で実施しており、研修参加者からは、「身近な組織の中で、実務レベルの国際保健医療協力を体験できた」、「今後のキャリアパスを明確にすることができた」、「病棟での業務が国際保健医療協力に通じるものがあると分かった」との感想が得られております。

研修を通して得られたこのような経験は、国際保健医療協力のみならず、臨床の現場を通して人々の健康と福祉の増進に活かすことができるものであり、さらにはそれぞれが目指す看護師像の指針となっております。

看護部では今後も、看護職員自身が目指す看護師像を後押しできるキャリアパス支援を展開し、豊かな看護人材の育成に努めていきたいと思っております。

国立国際医療研究センター病院

看護部長 木村 弘江



目次

グローバル・ヘルスを担う人材の育成を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・	01
国立国際医療研究センター 国際医療協力局長 日下 英司	
国際保健医療分野での活躍を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・	02
国立国際医療研究センター病院 看護部長 木村 弘江	
第1章 平成30年度【2018年度】国際保健医療協力に関わる看護職研修概要・・・・・・・・	04
第2章 国際保健医療協力実務体験研修・・・・・・・・・・・・・・・・	05
研修目的	
一般学習目標	
行動目標	
実施期間	
研修内容	
研修場所	
研修参加者	
研修評価指標	
研修日程	
研修報告会資料	
研修員研修報告書	
研修評価	
研修コースリーダー総括	
第3章 第7回看護職海外研修・・・・・・・・・・・・・・・・	21
背景	
研修目的	
一般学習目標	
行動目標	
研修日程	
研修場所	
研修参加者	
研修評価指標	
研修日程	
ベトナムに関する事前課題・研修報告会資料	
研修員研修報告書	
研修評価	
研修参加者コラム	
研修コースリーダー総括	

第1章 平成30年度【2018年度】 国際保健医療協力に関わる看護職研修概要

センター病院および国府台病院の看護部は、「かけがえのない生命と人間性を尊重しあたたかい看護をめざします」という理念の基、病院が提供する医療を理解し、看護の専門性を高め、質の高い看護サービスを提供できる看護師の育成を目的とし、積極的に院内教育取り組んでいる。この中で看護部は、「国際的な視点から看護活動や提言ができる看護師を育成する」ことを教育目標のひとつに掲げている。

国際医療協力局は、看護部と連携を図り看護職院内教育に関する目標達成に寄与すべく、2012年度から研修体制を、段階的に参加できるよう整備している。国際保健の基礎を学ぶためには、週末と祝日を利用した集中講座、毎月の土曜日を利用した国際保健基礎講座を実施し、海外研修を含まない内容で、できるだけ多くの方々に参加いただけるような体制をとっている。

また、国際協力における業務を理解するための看護職に特化した研修として、国際保健医療協力実務体験研修と看護職海外研修の2コースを実施しており、国際保健医療協力実務体験研修では主に国際医療協力局に勤務する職員の国内業務を理解し、看護職海外研修では海外で実施されているプロジェクトに実際に行き、海外における活動の視察を通して、保健医療に関する国際協力活動をより理解できる内容としている。

看護職の活動を理解した次のステップとして、他職種合同で国際保健医療協力研修を実施し、ベトナムのフィールドを通して関係者と現場の状況を知り、現場での介入を体験しながら、国際保健医療協力に必要な基礎的な知識・技能を習得することを目指した研修を実施している。

また、昨年度から実施した国際保健の基礎を学んだ後の研修として、講義形式の年々変化する国際協力の潮流に対応した研修も実施し、国際協力に関わる人材育成を実施している。

なお、全体像として、看護部看護職を対象とした国際保健医療協力に関する教育機会をまとめ、以下の表に表す。

	教育機会	対象	募集人数	期間	備考	費用
1	国際保健基礎講座	全員 ^{注1)}		通年(4月8月は除く) 月1回(第4土曜日)	8回以上修了証 発行制度あり	1回 1000円
2	国際医療協力I~III	全員		7月8日、8月7日 9月4日	看護部主催	
3	国際保健医療協力 実務体験研修	原則 3年目以上 4名×2クール	1クール目:3名 2クール目:2名 計:5名	11月5日~11月9日 2月18日~2月22日 1クール5日間		
4	看護職海外研修	原則5年目以上	2名	1月8日~1月15日	海外研修あり	
5	国際保健医療協力 集中講座	全員 ^{注1)}	40名	7月14日~16日 3日間		資料代 8000円
6	国際保健医療協力研修	基礎講座、 集中講座修了が 望ましい		9月15日~9月28日 10日間	海外研修あり	
7	国際保健課題別講座	全員 ^{注1)}		8月16日(保健人材) 11月18日(疾病対策) 2月16日(母子保健) 3月16日(UHC)		資料代あり 7000円

注1) 対象者数は、講義受講者総数に伴い人数制限がある。

注2) 国際医療協力基礎講座、集中講座、アドバンスコースに関しては資料代を徴収する。

以上のように看護職向けの研修を実施しているが、本報告書には看護職への特化した研修である、国際保健医療協力実務体験研修と看護職海外研修の2コースに関して報告する。

第2章 国際保健医療協力実務体験研修

研修概要

研修目的

国際的な視点から看護活動ができる看護職を養成する

一般学習目標

国際医療協力局看護職の活動概要を知る

行動目標

- 1) 国際医療協力の必要性を知る
- 2) 国際医療協力局の組織体制を知る
- 3) 国際医療協力局看護職の国内外での活動概要を知る

実施期間

第1クール：2018年11月13日（月）～11月17日（金）

第2クール：2019年2月18日（月）～2月22日（金）

研修内容

- 1) 国際医療協力局の紹介
- 2) 国際医療協力局における看護職の活動等に関する講義
- 3) 看護学校講義見学
- 4) 国際看護に関する講義見学
- 5) 国際保健医療協力活動シミュレーション
- 6) 国際保健医療協力に関する体験談等の協議
- 7) 各種会議、検討会、報告会見学
- 8) 報告書作成、提出

研修場所

国際医療協力局内、他

研修参加者

	参加クール	所属	氏名
1	1	7階東病棟	安部 恵理子
2		ICU病棟	小島 千怜
3		6階西病棟	氏家 美帆
4	2	16階個室病棟	清野 香織
5		8階西病棟	江藤 亜耶

研修評価指標

- 1) 研修目標の到達に関しては、自己評価を行う。
- 2) 研修管理に関しては、アンケートと評価会を実施する

研修日程 第1クール

日付	時間	形態	研修内容	講師 / 担当	
11月5日(月)	8:30 - 10:00	協議	プログラムブリーフィング(研修前質問実施)	神田・松藤	
	10:30 - 12:00	講義	国際医療協力局の概要	藤田部長	
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:30 - 15:00	講義	国際医療協力局看護職の活動概要	橋本課長	
	15:00 - 16:00	講義	国際看護とは	松藤	
	16:00 - 17:15	協議	振り返り	神田・松藤	
11月6日(火)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	神田・松藤	
	9:00 - 10:00	見学	派遣日程会議	神田・松藤	
	10:30 - 12:00	見学	研修課会議見学	橋本課長	
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:00 - 14:00	講義	局全体会議	明石部長	
	14:00 - 16:00	講義	看護職のプロジェクト活動の実際(長期専門家)医療の質改善チームの活動について	土井	
	16:00 - 17:15	協議	情報収集、振り返り	神田・松藤	
11月7日(水)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	神田・松藤	
	9:00 - 10:30	講義	カンボジア子宮頸がんプロジェクトについて	神田・赤羽	
	10:30 - 12:00	講義 / 演習	医師と看護職の協働について	神田・赤羽	
	12:00 - 13:30	休憩			
	13:30 - 16:30	見学	東都医療大学看護学生講義の見学「国際医療協力」	土井・神田	
	16:30 - 17:15	協議	振り返り	神田・松藤	
11月8日(木)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	神田・松藤	
	9:00 - 10:00	見学	母子チーム勉強会参加	神田・松藤	
	10:00 - 11:00	講義	研修実施のための情報収集から計画立案	松藤	
	11:00 - 12:00	講義	「パブリックリレーションズ(Public Relations:PR)の使命と役割」～ NCGM 国際医療協力局の認知向上と信頼と共感の獲得に向けて～	増田	
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:00 - 14:00	講義	国際医療協力局で働く看護職の役割 看護職のキャリアパス・自分たちのキャリアパス	神田・松藤	
	14:00 - 14:30	協議	センター病院看護職に期待すること	中山副看護部長	
	15:00 - 16:30	見学	国際医療協力局セミナー	協力局看護職	
	16:30 - 17:15	協議	振り返り	松藤	
11月9日(金)	8:30 - 9:30	協議	打ち合わせ(研修後質問実施)	神田・松藤	
	9:30 - 12:00	自習	研修報告書作成・報告会準備	研修生	
	12:00 - 13:30	休憩			
	13:30 - 14:00	演習	報告会(協力局・看護部参加)	神田・松藤	
	14:30 - 15:00	演習	評価会	神田・松藤	
	15:00 - 16:00	協議	全体討議会(局長戦略策定)	藤田課長	
	16:00 - 17:15	協議	修了式	神田	

研修日程 第2クール

日付	時間	形態	研修内容	講師 / 担当	
2月18日(月)	8:30 - 10:00	協議	プログラムブリーフィング(研修前質問実施)	小土井・松藤	
	10:00 - 12:00	講義	国際医療協力局の概要	三好部長	
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:30 - 14:30	講義	国際看護とは	小土井	
	14:30 - 16:00	講義	国際医療協力局看護職の活動概要	橋本課長	
	16:00 - 17:15	協議	振り返り	小土井・松藤	
2月19日(火)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	小土井・松藤	
	9:00 - 10:00	見学	派遣日程会議		
	10:30 - 12:00	見学	研修課会議見学		
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:00 - 14:00	講義	局全体会議		
	14:00 - 16:00	講義	看護職のプロジェクト活動の実際(長期専門家)	深谷	
	16:00 - 17:15	協議	情報収集、振り返り	小土井・松藤	
2月20日(水)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	小土井・松藤	
	9:00 - 10:00	講義	医師からみた看護職との活動について	杉浦課長	
	10:00 - 12:00	移動			
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:00 - 16:30	見学	国際看護学講義東京南看護専門学校	小土井	
	16:30 - 17:15	協議	振り返り	小土井	
2月21日(木)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	小土井・松藤	
	9:00 - 11:00	講義演習	研修実施のための情報収集から計画立案	小土井・松藤	
	11:00 - 12:00	講義	「パブリックリレーションズ(Public Relations:PR)の使命と役割」～ NCGM 国際医療協力局の認知向上と信頼と共感の獲得に向けて～	増田	
	12:00 - 13:00	休憩			
	13:00 - 13:30	講義	センター病院看護職に期待すること	中山副看護部長	
	13:30 - 15:00	協議	国際医療協力局で働く看護職の役割 看護職のキャリアパス・自分たちのキャリアパス	協力局看護職	
	15:00 - 16:30	講義演習	研修実施のための情報収集から計画立案	小土井	
	16:30 - 17:15	協議	振り返り	小土井	
2月22日(金)	8:30 - 9:00	協議	打ち合わせ	小土井・松藤	
	9:00 - 12:00	自習	報告会準備	研修員	
	12:00 - 13:30	休憩			
	13:30 - 14:00	演習	局長報告・修了式	日下局長	
	14:00 - 14:30	演習	アンケート記入	研修員	
	14:30 - 15:30	協議	評価会	橋本課長・小土井	
	15:30 - 16:00	協議	報告会準備	研修員	
	16:00 - 16:30		報告会(協力局・看護部参加)	研修員	
	16:30 - 17:15		振り返り	小土井・松藤	

国づくりは人づくり

国際保健医療協力実務体験研修

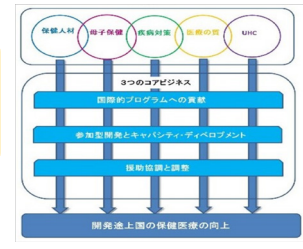
7東 安部 恵理子、ICU 小島 千怜、6西 氏家 美帆



2018/3/20 1

ミッションと5つのテーマ


国際医療協力局は、地球上のすべての人々が健康な生活を送ることが等しくできるような世界を目指し、開発途上国の保健向上のために専門性を提供し、また、我が国にその経験を還元する



2018/3/20 5

目次

- 研修受講の動機
- 国際医療協力局について
- 国際看護の必要性
- 講義や見学を通じて学んだこと
- 国際医療保健で求められるスキル
- 今後の課題
- 謝辞



2018/3/20 2

協力局での活動


国内での活動

- グローバル人材育成(研修や講義など)
- 派遣へ向けた後方支援
- 研修生の受け入れ
- 管理(人材、施設、コストなど)
- 研究
- 政策提言

国外での活動

- 専門家活動(短期、長期) 途上国への技術支援、人材育成
- 国際緊急援助隊
- 政策提言

ネットワークづくり



2018/3/20 6

研修の概要

- 目的: 国際的な視点から看護活動ができる看護職員の養成
- 目標: 国際医療協力局看護職の活動概要を知る
- 行動目標:
 1. 国際医療協力の必要性を知る
 2. 国際医療協力局の組織体制を知る
 3. 国際医療協力局看護職の国内外での活動概要を知る

2018/3/20 3

国際看護の必要性

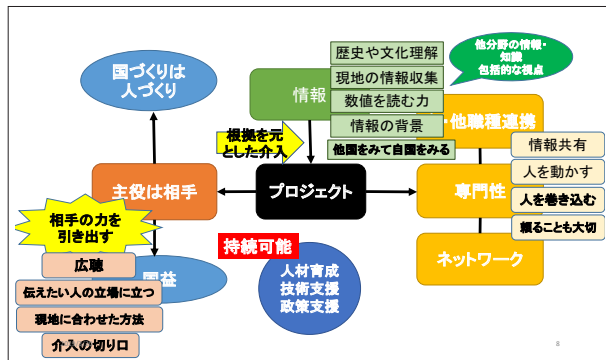
- ① **国家・地域間の健康格差**
平均寿命(貧困、紛争、水、感染症、母子保健、成人病、交通事故等の問題) 保健医療従事者の不足、質の問題
- ② **人間の国家間移動の活発化**
日本人の海外渡航の増加
外国に永住もしくは長期滞在者数の増加
外国人入国者数の増加
国家間の看護職の移動
- ③ **人類にとって新たな脅威**
新型インフルエンザ、エボラ出血熱などの新興感染症の世界的流行
地球温暖化に伴うサイクロンなどの災害の増加

2018/3/20 7

研修受講の動機

- 国際医療に興味があり、協力局の活動内容を知る。
- 臨床での経験がどのように協力局での活動に活かされるのか学ぶ。
- グローバルヘルス人材としてのキャリア開発を考える。
- 国際保健に携わるにあたり今後の課題を見つける。
- 自己の経験がどのように社会還元されるのか学ぶ。

2018/3/20 4



2018/3/20 8

国際看護活動に必要な能力

- ・**コミュニケーション力**
自分の伝えたいことを相手が分かるような形で発信する力
- ・**異文化適応力**
自文化と他文化の相違を受け入れ、他文化に適合しようとする力
- ・**マネジメント力**
自分自身の健康・生活全般にわたる管理は基本
- ・**専門的知識と技術**
現地の人から学ぶという偏断的な視点と、知識や経験を現地の状況に合わせて適用していく力
- ・**教育・指導力**
相手の価値観・文化を尊重、尊敬し相手から学び、自らも向上していける力
- ・**研究・記述力**
研究論文として発表し、有効な理論を現場に還元。国際看護学の学問的發展に寄与する力

2018/3/20

9

謝辞

本研修担当下さいました橋本課長をはじめ、松藤様、神田様、国際医療協力局の皆様には感謝申し上げます。今回多くの研修や講義を準備くださり有意義な時間となりました。

また、研修参加に際し勤務調整等の配慮をしてくだり、看護部の皆様に御礼申し上げます。貴重な体験を活かし、看護に励む所存でありますので、今後もご指導よろしくお願い致します。

2018/3/20

13

協力局で学んだこと



2018/3/20

10



3人の共通課題

- | 臨床現場で | 臨床以外で |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務で6つの必要な能力を強化する ・自分の専門性のスキルアップを図る ・管理的な視点を意識する | <ul style="list-style-type: none"> ・社会行政の情報を自ら収集する ・語学学習 ・積極的な勉強会や学会参加 ・ネットワーク作り ・国内に関する他分野の情報 |

2018/3/20

11



今後の課題

安部	小島	氏家
<ul style="list-style-type: none"> ・貪欲に ・丁寧な 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務を大切に ・支援について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性 ・感性

2018/3/20

12



国際保健医療協力実務体験研修 報告会 ～主役は“相手”～

平成31年2月22日（金）
8西 江藤 亜耶 16階 清野 香織

経験と動機（清野）



- 目次
- ・ 研修の目的、目標
 - ・ 経験と動機
 - ・ 国際協力局について
 - ・ 看護職専門家の実際
 - ・ 学んだこと
 - ・ 研修を通しての変化
 - ・ 自己課題
 - ・ 謝辞

経験と動機（江藤）



研修の目的、目標

- ▶ 目的 国際的な視点から看護活動ができる看護職員の育成
- ▶ 目標 国際医療協力局看護職の活動概要を知る

国際医療協力局のミッション

▶ 国際協力局は、地球上のすべての人々が健康な生活をおくることが等しくできるような世界をめざし、開発途上国をはじめとする世界の健康向上のために専門性を提供し、またわが国にその経験を還元する。

NCGM看護部の理念

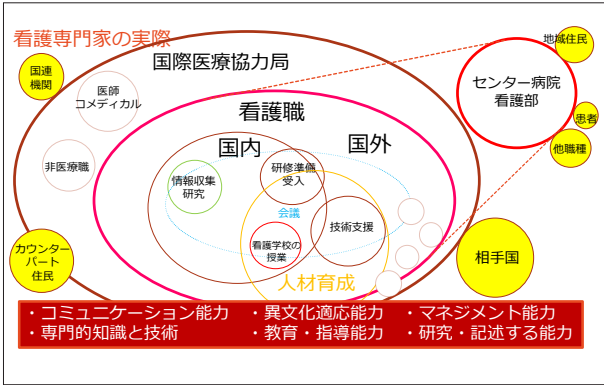
▶ かけがえのない生命と人間性を尊重し、あたたかい看護をめざします

ここから来ました。



国際医療協力局の活動

1. 新しい国際医療協力の推進
専門家の派遣、技術協力プロジェクト、緊急援助
2. 国内外のグローバル人材育成
研修の受入れ、日本人専門家の育成
3. 国際保健分野の研究推進
政策、疫学研究
4. 国内外とのネットワーク構築
ODA、国際機関との連携
5. 政策提言や形成への支援
日本の援助政策への提言・支援、開発途上国への提言・支援



研修を通しての変化

- ・医療現場で働いていることの自信につながった
- ・看護管理などマネジメントの必要性がわかった
- ・病棟での勤務に対するモチベーションがあがった↑
- ・海外からの研修生にやさしく



主役は“相手”

- ▶ 主体性を奪ってはならない
- ▶ 情報収集が大切
- ▶ コミュニケーションが大事
 - ・現地語を学ぶ
 - ・非言語コミュニケーション
 - ・相手の話をよく聞く
 - ・双方向のコミュニケーション



自己課題

清野

- ▶ ビジネスマナーの向上
- ▶ どんな時でも目的や目標を意識しながら取り組みたい
- ▶ 相手に思いやりを忘れずにいきたい

江藤

- ▶ 看護職としての専門性を磨き、判断力を身につける
- ▶ 語学力
- ▶ 社会問題に関心をもち、看護師として何が出来るか考え続ける

今の看護実践がそのまま生きる！

- ・看護展開
- ・係活動（教育、医療安全、感染管理など）
- ・患者とのコミュニケーション
- ・日本の医療も…



謝辞

国際医療協力局の皆様には心より感謝申し上げます。

看護部、病棟師長、スタッフの皆様にも御礼申し上げます。

今回の貴重な体験から学んだことを活かし、病棟での看護に励む所存でありますので、今後もご指導よろしくお願い致します。

いままでの経験が生きる

- ▶ ビジネスマナー
- ▶ 語学力
- ▶ 異文化での苦労
- ▶ 福祉での経験





研修報告書

研修名： 2018年度 第1回 国際保健医療協力実務体験研修
受講期間： 2018年11月5日～11月9日
研修実施機関： 国立国際医療研究センター 国際医療協力局
所属・氏名： 看護部7階東病棟 安部 恵理子
提出日： 2018年11月16日
要約： 本研修は看護部の教育目標に基づき、国際医療協力局（以下、協力局）との連携のもと開催された。協力局の概要や看護職員の国内外での活動の知見を通して、国際看護活動に必要な能力や開発途上国での経験の社会還元方法を学び、今後の自己のキャリア開発について考えるきっかけを得た。

【背景】

看護部では、教育目標の一つとして「国際的な視点から看護活動や提言が出来る看護師の育成」を掲げている。そのため、協力局は、看護部と連携を図り、教育目標に寄与すべく、研修機会を段階的に整備し、協力局看護職の活動を知ることを目的に、2012年より本研修が開催されている。

【目的】

協力局の概要や看護職員の国内外での活動の知見を通して、今後、国際保健・国際協力分野で活動するにあたり、自己に必要な能力や経験を知り、今後のキャリアについて考える。また、開発途上国での自己の経験をどのように社会・病院へ還元していけるのかヒントを掴む。

【研修内容と成果】

協力局の概要や看護職・他職種の内業務の見学・講義を通して、協力局の活動はNCGMのグローバル戦略に基づいており、その中で世界情勢、国際保健の動向を把握し、世界の経済格差、健康格差の是正のため、国内外の協力機関とネットワークを結び活動していることを知ることが出来た。さらに、専門家の活動から、看護職は多角的・包括的な視点を持ち、多職種連携の中で、自己の専門性を発揮し、相手国の人々が継続して発展していけるよう支援・マネジメントを行い、国づくり・人づくりに貢献していることが分かった。国際看護活動に必要な6つの能力は、日頃の看護を行う上でも必要な能力であり、病棟業務の中で、一つ一つの能力を高めていくことが国際協力人材として成長することにも繋がる。また、協力局看護職員のキャリアを知ることや大学生への講義、NGO職員の講義を通して、国際協力には様々な形、経験の還元方法があることを学ぶことが出来た。

【所感】

研修を通して、国際協力への興味・関心や開発途上国での学びや思いなど、日々の病棟業務の中で埋もれてしまった初心を思い出すことができよかった。国際保健分野で活動していくことを常に意識して仕事をする中で、日々の看護に前向きに積極的になれるのではないかと思う。世界情勢に常にアンテナを張り保健分野だけではなく広い知見を得ていきたい。また日本の社会経済、保健の歴史と現状を知り、そして今の日本の医療問題と向き合うことが、この先の開発途上国援助に繋がっていくと思うため、日本での問題を切り離して考えるのではなく、常に国際保健の視点を持ち、日々の業務の中で多角的・包括的に物事を捉える視点を養い、今後のキャリアを考えていきたい。

【謝辞】

本研修の開催に伴い、橋本課長、松藤様、神田様をはじめ協力局の皆様には大変お世話になりました。ご多忙の中、有意義な時間を提供していただきましたことに、心より感謝いたします。また、研修参加に際し、大内師長をはじめ看護部の皆様には、勤務調整等の配慮をいただき深く感謝申し上げます。

研修報告書

研修名： 2018年度 第1回 国際保健医療協力実務体験研修
受講期間： 2018年11月5日～11月9日
研修実施機関： 国立国際医療研究センター 国際医療協力局
所属・氏名： 看護部 6階西病棟 氏家 美帆
提出日： 11月18日
要約： 本研修の背景として、国際医療協力局が、看護部との連携を図り、看護職院内教育目標の達成に寄与すべく開始された経緯がある。研修中は、講義やセミナー参加、定期的な会議等へ参加することができ、看護職の役割や重要性を知ることができた。また、研修を通して自身の臨床における技術や知識の見直し、専門性の強化などの課題が見出せた。

【背景】

看護部の教育目標に「国際的な視点から看護活動や提言ができる看護師を育成する」と挙げられている。看護部は、国際保健医療協力に関する教育機会を段階的に整備し、看護職のモチベーションを高め、維持することが必要であることを認識している。国際医療協力局（以下、協力局）は、看護部と連携を図り、看護職院内教育目標の達成に寄与すべく、平成24年度から病院看護職を対象とし本研修を開始したという経緯がある。

【目的】

本研修は、1. 国際保健医療協力の必要性を知ること、2. 協力局の組織体制を知ること、3. 協力局看護職の国内外での活動概要を知ingことを目的としている。

【研修内容と成果】

様々な講義を通して、協力局は、新興感染症や気候変動による災害の発生、地域格差など様々な課題に対して、専門職としてグローバルな視点で保健医療協力を行っていることを学んだ。また、協力局内での会議において、人材管理、業務内容、予算計画管理などの情報を局員間で共有していることを知った。看護職の活動概要としては、国外での支援活動のみではなく、国内での研修生の受入れ、医療関係者や看護学生などへ向けた研修や講義などの人材育成も重要な活動の一つであることを知った。これらから、自身の課題として、知識や技術の不足、国際的な視点を普段から意識することが欠けていることを認識した。常に問題意識を持ち続け、勉強会や研修参加などにより助産師としてのスキルを上げること、国際保健分野に関する勉強会や学会参加などにより積極的に情報を得ていくことが必要である。

【所感】

今回の研修を通し、国際協力の現場では広い視野を持つことで、多くの気づきや改善策が見出せることが分かった。臨床においても対象の身体的な状態のみならず、社会的背景や心理的な要因など広くアセスメントする力を求められることから、普段の臨床現場と通じるものがあると改めて気付いた。

【謝辞】

今回の研修参加へ向け多くの貴重な機会を提供していただきました協力局の皆様、看護部の皆様、病師長様、病棟スタッフの皆様へ厚く御礼申し上げます。この機会を今後の現場で活かしていく所存です。

研修報告書

研修名： 2018年度第1回 国際保健医療協力実務体験研修
受講期間： 2018年11月5日～11月9日
研修実施機関： 国立国際医療研修センター国際医療協力局
所属・氏名： 看護部 ICU病棟・小島 千怜
提出日： 2018年11月9日
要約： 国際協力局内での活動を実際に見学し、国内活動を知った。長期派遣に行った方からの講義を通して、国際保健活動の具体的な活動内容・支援方法を知ることができた。また、今後の自己課題を見つけることができる研修であった。

【背景】

本研修目的は、国際的な視点から看護活動ができる看護師を養成することである。この研修に参加することで国際的な視点をより持つことができ、当センターの教育目標の一つである、国際的な視点から看護活動や提言ができる看護職を育成する。

【目的】

1. 国際医療協力局での活動内容を知る。
2. 国際協力を具体的にどのように行っているのか知る。
3. 今後国際協力に携わるにあたり必要な知識やスキルを明確にし、自己の今後の課題を明確にする。

【研修内容と成果】

上記目的1については、本研修に参加し、会議や国際看護・国際保健の概要の講義を通して学ぶことができた。具体的には国内活動として、研修や講義を実施し、グローバル保健医療人材の育成、海外研修受入、研究、海外派遣スタッフの後方支援を行っていた。また、国外活動としては、支援国に行き、人材育成・技術指導・政策提言を行っていたことがわかった。そして、これらの活動を可能にするためにネットワーク作りを行っているということを知ることができた。そのため当目的は達成できたと考える。

目的2、3に関しては、長期専門家でベトナムに行かれた局員、短期専門家としてカンボジアに行かれた局員の講義を通して学ぶことができた。実際に支援国に行った際、カンボジアでは、現地の医療従事者が、子宮頸がんに関する知識の提供、子宮頸がん検診の必要性の説明、検診が正しく行うことができるように様々なサポートを行っていた。ベトナム支援の講義においては、どのような観点から支援内容を考察したのかを学ぶことができた。また、講義を通して、支援方法や、支援する際に必要な力なども学ぶことができた。これらの学びを得たことで、研修前後で変化したことが3つある。1つ目は、研修前は国際看護で必要な力は、普段の臨床とは全く異なる力だと考えていたが、共通する点が多いということ。2つ目は、自分自身が自国のことを知らないということ。3つ目は社会行政を把握する大切さを学んだことである。そして、自己の課題を明確にすることができた。よって、目的2、3も達成できたと考える。

今後は、発見した自己課題を解決するために、普段の臨床で必要とされている力をさらに向上させ、社会行政を把握するために自ら情報収集を怠らずに継続し、国際看護研修にも積極的に参加していきたい。

【所感】

研修を振り返ると、日々刺激を受ける毎日であった。自分に足りないものは何か、また足りないだけでなく強めていく部分は何かを考えるきっかけになった。また、国際保健を知ること、考えることは、自国を知ること、自国を見つめなおすきっかけにもなると感じた。

【謝辞】

本研修をご担当して下さいました国際医療局の皆様には感謝申し上げます。多くの研修や講義に参加させていただき有意義な時間となりました。また、日々病棟もお忙しい中、勤務調整をして下さいました看護部の皆様にも御礼申し上げます。

研修報告書

研修名： 2018年度 第2回 国際医療保健実務体験研修
受講期間： 2019年2月18日（月）～2月22日（金）
研修実施機関： 国際医療協力局
所属・氏名： 16階病棟 清野 香織
提出日： 2019年2月26日
要約： 国際協力局の医師や看護師からの講義や演習を受けることにより、協力局の活動や局員の実務を学ぶことができました。臨床現場での経験が国際協力の活動に通じるものがあることを学び、臨床現場での業務や看護に対する意欲向上につながった。同時に自己課題が明確になり、今後のキャリアパス形成に役立てることができた。

【背景】

当院看護部は、「国際的視点から看護活動や提言ができる看護職を育成すること」を教育目標のひとつに挙げており、本研修は教育プログラムの一環として国際協力局の活動概要や局員の実務を知るために開催されている。

【目的】

国際協力局の活動概要や局員の実務を知ることから、今後のキャリアパス形成に役立てることを目的とした。

【研修内容と成果】

国際協力局の活動概要、組織体制、看護職の役割、他職種連携について講義を通して学んだ。またベトナムに専門家として派遣された看護師による長期プロジェクトについての講義や国内研修実施のための計画立案の演習から、病棟で行っている係活動（新人教育、感染管理、医療安全など）の知識や経験、看護計画立案のプロセス、リーダーシップなどの臨床経験が国際協力の場でも活かされることを学ぶことができた。さらに、協力局の看護師のキャリアパスについて意見交換する機会を得られたことは、自身のキャリアの方向性を考える上で貴重な体験となった。臨床現場と国際協力における看護は活動の場所が違うが多くの共通点があることを学んだことで、今後の業務や看護に対するモチベーションの向上につながった。特に病棟でのリーダーシップや看護管理の視点を持ち、マネジメント能力向上に重点的に取り組んでいきたいという自己の課題を明らかにすることができた。

【所感】

研修に参加する前は、国際協力についての知識が少なかったため、国際協力とは物資や技術支援が主な活動であると思っていた。講義や演習から実際行っている活動は多岐にわたり様々な形で行われていることを知り、知識の面でも新たな学びの多い研修であった。今後のキャリアアップのために必要な自己の課題が明確になったため、常に広い視野で物事を捉え、日々の臨床現場での看護に取り組んでいきたい。

【謝辞】

本研修をご担当下さいました国際医療協力局の皆様にご心より感謝申し上げます。皆様のおかげでとても有意義な研修となりました。また、このような貴重な機会を与えてくださった看護部、師長、病棟スタッフの方々にも御礼申し上げます。

研修報告書

研修名： 2018年度 第2回 国際保健医療協力実務体験研修
受講期間： 2019年2月18日～2月22日
研修実施機関： 国立国際医療研究センター
所属・氏名： 8階西病棟 江藤 亜耶
提出日： 2019年2月27日
要約： 国際保健医療協力に関する講義や実務の見学を通して国際医療協力局の概要や協力局での医療専門職の活動について学んだ。また、実務からは国際医療協力を行う上で必要な能力について学び、臨床現場での自己研鑽の重要性と広い視野で考察することが必要であると感じた。

【背景】

国際医療協力局があることは当院の大きな特徴のひとつであり、本研修は看護師教育の一環として、看護師が国際保健医療協力を学ぶ機会を提供し、国際的な視点から看護活動を行うことの出来る看護師の育成を目指し実施された。

【目的】

- 国際保健の基礎知識や国際医療協力局の機能や組織について学び、当院で実施している国際医療協力について知る。
- 実際の活動を通じて、国際保健医療協力に必要な能力を身につけるための学びの手掛かりを得る。
- 国際医療協力局に所属する看護師の役割を学び、仕事に対する想いや経緯について聞き、具体的な自己のキャリアパスを考えると同時に病棟勤務で養うべき新たな自己課題を見つける。

【研修内容と成果】

国際保健についての基礎知識や国際医療協力局が実施している国内外での実際の活動を知ること、保健・医療分野で求められている支援の潮流や具体的な活動を理解することができた。また、国際保健医療協力において必要な能力について知ることができた。特に、全ての活動において相手側となる人々が主体的に活動できるよう配慮し、意志や文化を尊重する姿勢をもって援助を行うことが重要であると学んだ。また看護職のキャリアパスについては、国際医療協力局で働く諸先輩方のこれまでの経歴や現在の仕事に対する姿勢等を聞き、これまでの全ての経験が協力局での活動に生かされることを知った。特に専門職としては、普段の病棟業務が発展途上国の支援にも生かされることを知り、看護職としての専門性を磨くという自己課題を見つけることができた。

【所感】

実際の協力局の活動内容を通じて、全人的に対象を見て、その対象のニーズやゴールに向かえるように支援するためには病棟業務に励み、看護展開を的確に行える必要があると分かり、病棟における看護職としての能力研鑽にますます勤しみたいと感じた。また、政策提言など協力局の特徴を具体的に学んだことで、いずれは政策に携わる活動を行いたいと感じた。

【謝辞】

本研修の開催に伴い、橋本課長、研修担当の小土井様、松藤様をはじめ国際医療協力局の皆様には大変お世話になりました。また研修参加に際し、勤務調整等の配慮をして下さった看護部の皆様に御礼を申し上げます。研修で得た自己課題達成のために精進して参りますので、今後ともご指導をお願いします。

研修評価

研修アセスメント結果（研修最終日に評価会を実施）

a: 非常にそう思う b: そう思う c: どちらとも言えない d: あまりそう思わない e: 全くそう思わない

5段階評価項目	a	b	c	d	e	回答理由および特記事項
1. 研修オリエンテーションは研修日程と内容を理解する上で役立ちましたか？	4	1	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 5日間の日程や内容が示され、各日の研修のねらい・目標が明記されていることで、事前に調べるポイントが分かった。また、各研修内容において、特に何を着目して学ばよいか、振り返りの際にもポイントを押さえることにも役立った。 どのような流れで進行していくのが理解でき、自身の関心のあがる点が盛り込まれているのかを確認して、有意義に時間を提供できるように調整してくれて助かった。 1週間の予定と、講義の場合はどのような人がどのような内容を講義してくれるのか、具体的に説明してくれた。 研修オリエンテーションで目的・目標や日程などの説明があったのでスムーズに研修を受けることができたと思う。日程表が見やすく、内容とねらいがすぐに分かった。 あまり覚えていない
2. 5日間の研修期間は適当な期間でしたか？	0	3	1	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 5日間では、まとめきれない部分もあり、頭の整理が間に合わない部分もあった。もう少しゆとりがあればと思った。 学ぶ内容がたくさんあり、国際医療協力局へのさらなる興味をもっと研修したかったが、センター病院の看護師として病棟で働く身分としては、これ以上長期になると、病棟に迷惑をかけてしまうと思った。 学ぶことが沢山あるため、5日間はとても短く思った。 業務は多岐に渡っているためもっと研修をしたい気持ちはあるが、概要を知ることができたと思うので適当であると思う。 協力局の活動の全部を見る必要はなく、全体像が見えればよいと思う。 もう少し長い期間であると個人的にはいいと思うが、病棟業務を忘れそうであるため適当だと思う。
3. 国際医療協力に関する関心を高めるのに、研修内容は役に立ちましたか？	5	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 全ての研修を通して、国際看護の視点を養うことができた。 協力局の概要から始まり、実際の国内外での活動や多・他職種協働の実態を知り、普段の業務の中でも、常に国際看護の視点を持ち、自己の看護師としてのキャリアを考えていきたい。国際情勢にもアンテナを張っていきたい。 導入としての概要、局の管理、情報共有の方法や多職種とのつながりなどが網羅されており、自身の関心のある内容も深められるため。 すべての研修が国際協力を行うにあたり、必要な研修であったと感じているため、選択することができない。 キャリアパスについての討議の時間を長くしてほしい。 「研修実施のための計画立案」は自分の足りなさを実感するところではあった。ただもっと優しい課題の方がよく、条件が厳しいと思った。 「プロジェクト活動の実際」実際のどのような活動を行っているのか分かった。 今回は時期もあると思うが、実際に海外からの研修生と会う機会があればよかった。

5段階評価項目	a	b	c	d	e	回答理由および特記事項
4. この研修は原則として実務経験3年目以上を対象に実施していますが、この基準は適切と思いませんか？	0	4	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 協力局での活動は、マネジメント能力も非常に大切であり、看護師として業務を日々こなし、後輩育成や病棟での係活動を通して管理的視点も養っておくことで、より国際看護への理解が深まり、病棟勤務に還元することが可能になると思った。 個々の経験によると思うが、3年目以上の対象で妥当と思う。 臨床経験が基盤にあってこの国際保健だと感じた。 この研修事態は適当だと思うが、1～2年目対象の1日研修があってもいいのでは中と思う。国債に興味があってもその興味を持続させることが難しいため。 病棟の看護についてわかっていれば経験年数は問わなくても良いのではないか。
5. 研修参加人数は適切でしたか？御意見を聞かせて下さい。						<ul style="list-style-type: none"> 研修参加人数は3名であったが、コミュニケーションを密に取ることが出来、適切であった。 話し合うにもちょうどよく、質問しやすく良い雰囲気であった。 質問などもしやすく、全体としてとても良い環境で研修を行えていると思う。 2人で協力することも大切な学びであるし、あまり多いと緊張感がなくなったり、個が見えにくくなったりするので適当な人数であると思う。
6. 研修全体を通して感想や意見等がありましたら記入して下さい。						<ul style="list-style-type: none"> 日頃病棟で勤務していると接点がなく分からなかった国際医療協力局の活動を知り、学ぶことができ良かった。国際協力の概要から始まり、国内外での活動を学ぶことで、それぞれがどうリンクしているか、国際協力の動向やそれを踏まえた上での活動の流れを学び深めることが出来たと思う。「国づくりは人づくり」という言葉が国際協力をよく表していると感じた。実際に専門家の話を聞く機会は滅多にないので貴重な時間だった。人を育てることが国の発展を支えることを活動から学ぶが出来た。また、協力隊での経験や学びを思い出す良い機会となった。局員の皆様は、常に温かく接して下さり、毎日協力局に来るのが楽しみだった。忙しい中で、貴重な時間と知識・経験を与えて下さり、ありがとうございました。皆様を一つのロールモデルにし、いつか国際協力に携わることが出来るよう、日々顔晴（がんば）っていききたいと思う。 あっという間の5日間ではあったが、多くの職種の方々からサポートいただき、素敵な職場であると感じた。個々の専門を生かした講義を聞いたため、視野を広げられたと思う。はじめは、国際協力における看護職の活動は、医師に比較し限られているのではという印象を持っていたが、今回の研修では、その点を見直すことができ、多職種連携の重要性に気付かされた。普段なかなか聞くことのできない内容がたくさん研修に盛り込まれており、忙しくは感じたが充実感の方が大きかったと思う。 学びや刺激のある1週間だった。国際保健・国際看護について知ることができ、協力局での活動も知ることができた。「支援をする」ということを具体的にどのような段階で追い、何を基に行っていくのかをイメージすることができた。また、適切な支援をする重みと責任など考えさせられる日々だった。自己の課題を見つけることもでき、自分は日本のことを知らないことに気づき、常にアンテナを張り自ら社会行政等の情報を集めていきたいと思った。 日々の看護業務で大切なことが国際看護でも生きるため、日々の業務を大切に、自己成長していきたいと感じた。協力局の皆様がプロフェッショナルとして働いている姿をみて尊敬した。 報告会の準備が大変であったが、全体を通して局のみなさんに温かく受け入れてもらえていると感じた。 私たち自身が局と病院との懸け橋であるし、患者、多職種、地域、様々なものの懸け橋であるということを実感した。またざっくばらんに実情を話して下さり、自分自身の将来についても現実的に考えることができた。

研修コースリーダー総括

国際保健への道を志し、または将来の選択肢の一つとして看護師のキャリアをスタートしたものの、日々の臨床業務が忙しく、国際保健医療協力について学ぶための余裕が持てないと悩む人が多くいると思います。特に国際保健を志す看護職の方々は、国際保健の分野において様々なキャリアの選択肢がある中、自身の方向性について考え、焦りを感じることもあるのではないのでしょうか。私自身も同様の悩みを持つ中、本研修に参加したことで、臨床現場での看護実践により目的意識を持って取り組むことや、今後のキャリア形成を意識することに繋がった経験があります。今回、研修員の方々が国際医療協力局の実務を体験することで、今後の看護師としての実践や、キャリアを考えるうえで一端を担えるよう研修を組み立てました。

本研修中、研修員の方々には、国際医療協力局職員による各種業務や経験をもとにした講義の他、会議等に参加し、実務を体験していただきました。今年度は両クール共に協力局が開催する外国人研修が実施されていなかったため、講義と机上での実務体験となりましたが、「研修実施のための情報収集から計画立案」において、実際に計画立案を行うことで、研修を計画する際にどのような知識や視点が必要となるか理解を深めました。また、協力局職員が看護学生に行う国際保健の講義への同席、海外長期プロジェクト派遣経験職員から実際の活動について講義をうけ、協議を行う時間を設けました。それらを通して研修員自身が、国際保健医療協力局職員の国内外での活動の一端を理解し、体験することに繋がったのではないかと思います。

また、今年度は国際保健活動に求められる非医療従事者の活動と専門職との連携について、はじめて局員である広報の専門家から学ぶ機会を得ました。このことを通じて、国際保健医療協力や臨床現場における看護について、今までとは違った視点で考察することができたのではないかと思います。日々の研修の中で、研修員間で学びや考察を共有しながら進め、最終日の報告会では、研修での学び、今後の抱負など熱を持って発表して下さい、研修員の意欲が伝わってきました。

最後に、本研修へご協力頂いた看護部の皆様、国際医療協力局職員、そして研修へ熱意と真摯な姿勢を持って参加して下さいました研修参加者の皆様へ、感謝申し上げます。

2018年度 国際保健医療協力実務体験研修
コースリーダー 松藤三紀 小土井悠

研修担当

人材開発部	研修課長	橋本 千代子
	研修係長	珍田 英樹
	助産師	神田 未和
	看護師	松藤 三紀
		小土井 悠

第3章 第7回看護職海外研修

研修概要

背景

2012年度より国際医療協力局は看護部と連携し、国際保健医療分野での活動を目指す看護職員を対象とした研修を段階的に提供するため、「看護職海外研修」を実施している。毎年、参加者より「活動する国の医療事情を知るだけでなく、文化や歴史を理解していることが国際保健で活動する上でとても大切だと気づいた」「日本の制度や保健システムも学ぶ必要があると思った」といった感想が聞かれ、海外だけでなく、日本の保健医療にもあらためて目を向ける事ができる研修となっている。

研修目的

国際的な視点から看護活動ができる看護職を養成する。

一般学習目標

海外研修を通じて開発途上国の看護の状況と国際医療協力分野における看護職の役割と活動を理解し、自己の課題を探る。

行動目標

- 1) 海外研修前に、研修対象国の保健医療に関する指標等を調べる事ができる。
- 2) 海外研修において、研修対象国の看護の状況と開発途上国で仕事をする看護職の役割と活動を理解できる。
- 3) 海外研修終了後に、研修のまとめを行い、自己の学びを表現できる。

研修日程

- 1) 渡航前国内研修（オリエンテーション含む）
日時：2019年1月8日（火） 8：30～17：15
内容：概要説明、目標確認、事前課題協議、事務手続き確認
- 2) 海外研修
日時：2019年1月9日（水）～1月13日（日）（別添「日程表」参照）
内容：国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」現地シンポジウム準備・参加
ベトナム国の臨床看護現場視察、現地の日本人看護職との意見交換
- 3) 渡航後国内研修
日時：2019年1月15日（火） 8：30～17：15
内容：研修まとめ、研修報告会、報告書作成、評価会

研修場所

国内研修：国際医療協力局

海外研修：ベトナム社会主義共和国

研修参加者

	所属	氏名
1	特別個室病棟（16階）	石井 真仁子
2	ACC(AIDS Clinical Center) 病棟（12階東）	佐藤 紫乃

研修評価指標

- 1) 研修目標の到達に関しては、自己評価を行う。
- 2) 研修管理に関しては、アンケートと評価会を実施する。

研修日程

日付	時間	研修内容	講師 / 担当	所属	研修場所	
1月8日（火）	8:30 - 09:30	オリエンテーション 研修概要説明・目標・研修日程等の確認	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	国際医療協力局 会議室	
	09:30 - 10:00	国際医療協力局人材開発部長挨拶	三好部長			
	10:00 - 11:00	事前課題準備	宮崎・橋本課長			
	11:00 - 12:00	事前課題発表・フィードバック	宮崎・橋本課長 三好部長			
	12:00 - 13:00	昼食				
	13:00 - 14:00	フィールド研修オリエンテーション	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	国際医療協力局	
		成田空港へ移動				
	18:30 - 22:55	東京 / 成田 (JL751) - ベトナム / ハノイ				
1月9日（水）	8:30 - 9:00	五十嵐・国枝と合流 Gia Lam General Hospital 見学 「医療の質・安全に係る組織内連携の実際」	宮崎・橋本課長 五十嵐・国枝	国際医療協力局	Gia Lam 病院 (ハノイ)	
	9:00 - 10:00	移動・昼食				
	10:30 - 12:00	Duc Giang General Hospital 見学 国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催準備			Duc Giang 病院 (ハノイ)	
1月10日（木）	8:30 - 16:30	国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催（運営・参加）	宮崎・橋本課長 五十嵐・国枝	国際医療協力局	Duc Giang 病院 (ハノイ)	
1月11日（金）	8:30 - 14:00	国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催（運営・参加）	宮崎・橋本課長 五十嵐・国枝	国際医療協力局	Duc Giang 病院 (ハノイ)	
	14:00 - 15:00	昼食・移動				
	15:00 - 16:00	JICA ベトナム事務所訪問 在外職員（企画調整員・健康管理員）の活動概要・キャリア	高島恭子 大場利優	企画調整員（保健・社会保障） 健康管理員	JICA ベトナム事務所	
1月12日（土）	9:30 - 12:00	バックマイ病院視察 病棟見学	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	バックマイ病院 (ハノイ)	
	12:00 - 13:00	昼食				
	13:00 - 14:00	看護職長期専門家の活動の実際 新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト 【看護教育】 チョーライ病院むけ病院運営・管理能力向上支援プロジェクト 【患者安全 / 看護管理】	深谷・森山	JICA 長期専門家 (NCGM)	ハノイ市内	
	14:00 - 14:30	ハノイ空港へ移動				

日付	時間	研修内容	講師 / 担当	所属	研修場所
1月13日(日)	0:25 - 7:10	ベトナム / ハノイ (JL752) - 東京 / 成田	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	
1月14日(月)	休日・祝日				
1月15日(火)	8:30 - 9:00	研修アンケート記入	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	国際医療協力局
	9:00 - 12:00	研修報告書作成・報告会準備	宮崎・橋本課長		
	12:00 - 13:00	昼食			
	13:00 - 15:00	研修報告書作成・報告会準備	宮崎・橋本課長	国際医療協力局	国際医療協力局
	15:00 - 15:30	海外研修報告会 研修での学び発表	宮崎・橋本課長		国際医療協力局 会議室 1,2
	16:00 - 16:30	修了式・国際医療協力局長への報告	日下局長・宮崎・橋本課長		国際医療協力局 局長室
	16:30 - 17:15	研修評価会 (アンケート結果を基に実施)	宮崎・橋本課長		国際医療協力局

第7回看護職海外研修報告

平成31年1月8日～1月13日

12階東 佐藤 紫乃
16階 石井 真仁子

(2) 歴史

BC207年 南越国の成立
938年 中国から独立
1010年 首都をタンロン（現:ハノイ）に定める
1884年 フランスの保護国となる
1945年 「ベトナム民主共和国」独立宣言
1946年 インドシナ戦争
1954年 ディエンビエンフーの戦い/南北分離
1965年 アメリカ軍による北侵開始（ベトナム戦争）
1973年 パリ和平協定、アメリカ軍の撤退
1973年 日本と外交樹立
1976年 南北統一「ベトナム社会主義共和国」
1979年 中越戦争
1991年 カンボジア和平パリ協定
1992年 日本の対越援助再開
1995年 アメリカとの国交正常化



以降ASEAN, APEC, WTOに正式加盟し国際社会で活躍！！

目標

- ・学習目標
海外研修を通じて開発途上国の看護状況と国際医療協力分野における看護職の役割と活動を理解し、自己の課題を探る
- ・行動目標
1. 海外研修前に、研修対象国の保健医療に関する指標を調べることができる
2. 海外研修において、研修対象国の看護の状況と開発途上国で仕事をする看護職の役割と活動を理解できる
3. 海外研修終了後に、研修のまとめを行い、自己の学びを表現できる

(3) 政治体制

政体：社会主義共和国
元首：グエン・フー・チョン国家主席
首相：グエン・スアン・フック
政権党：共産党
国会：一院制
内政：市場経済システムの導入と対外開放化を柱とした
ドイモイ（刷新）路線を継続
“構造改革や国際競争力の強化”



1. 海外研修前に、研修対象国の保健医療に関する指標を調べることができる

(4) 経済

主要産業：農林水産業、鉱業、工業
通貨：Dong(1\$ = 22,522VND)
GDP：約2235億\$
経済成長率：6.81%



1989年頃よりドイモイの成果が上がり始め、1990年代及び2000年代は高成長を遂げ、2010年に中所得国になる。2011年以降、マクロ経済安定化への取組に伴い、ASEAN域内でもトップクラスの成長率を達成！

1. 国の概要

(1) 基礎情報

総人口：約9370万人
面積：32万9241平方キロメートル
首都：ハノイ
宗教：仏教、カトリック、カオダイ教他
民族：キン族（越人）約86%、他53の少数民族
言語：ベトナム語
気候：亜熱帯気候（北部）
熱帯モンスーン気候（南部）



2. ベトナムの保健医療状況と課題

(1) 基本保健指標

出生児の平均余命：76歳
5歳未満児死亡率：24
栄養不良の5歳未満児の比率：20%程度
妊産婦死亡率：54(出生10万人当たり)
合計特殊出生率：1.7
粗死亡率：527.9
高齢化率：7%(2011)、8.1%(2020予測)、17%(2040予測)

(2)主な疾病と対策

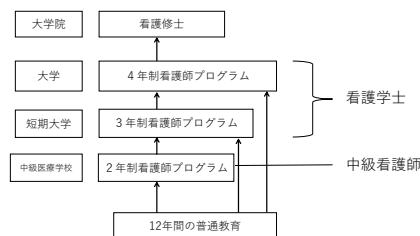
・主な疾病

疾病名	件数 (10万件)
本態性高血圧	603
肺炎	561
急性咽喉炎・急性扁桃腺炎	482

・死亡原因

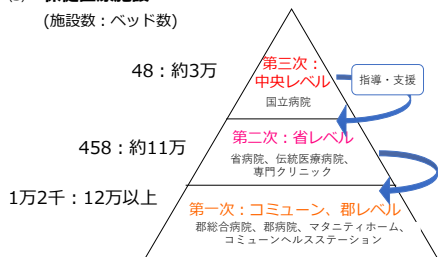
疾病名	件数 (10万件)
頭蓋内出血	1.32
肺炎	1.32
心筋梗塞	0.88

(6)看護教育制度



(3) 保健医療施設

(施設数：ベッド数)



ベトナム保険制度 診療報酬

- ・健康保険法
- ・保健省 ベトナム社会保険
- ・給付の種類：
- ・本人負担割合
- ・財源 ①労使拠出、②社会保険拠出、③政府全額拠出、④政府部分拠出、⑤任意拠出
- ・加入者数 被保険者数は6,465万人で、全人口に占める割合は約70%

(4) 保健医療人材

- 医師：7万人
- アシスタントドクター：5万6千人
- 看護師：9千人
- 中級看護師：8万人
- 初級看護師：4千人
- 薬剤師：2万人

年々増加傾向

(7)ベトナムの看護の課題

1. 看護師教育制度の見直し (カリキュラム、教育年数、国家試験の導入など)
2. 看護師養成学校の教員不足
3. 看護師の低就職率
4. 看護師の倫理規定、業務範囲、コンピテンシースタンダードの見直し
5. 卒後の継続教育の導入

(5)看護制度－看護師の資格・業務範囲

「診断と治療の法律 (2011)」

患者の権利及び義務、医療専門職者の条件・権利・義務、診療施設の条件・資格、専門技術規則など

「入院患者の看護ケアのガイドライン (2011)」

(保健省通達による)
業務範囲、病床のある医療センターや研究機関を含む病院における入院患者の看護ケアの指針

3. 日本の「医療の質・安全」への取り組み

(1)医療安全推進

医療安全への背景

1999年の相次ぐ医療事故の報道以降、医療安全への関心が高まる。医療法などで医療機関の医療安全管理体制を整備し、また安全対策を講じられた医薬品や医療機器などを普及するなど、国をあげて対策がとられはじめた。

1. 医療機関等で求められる医療安全管理体制
2. 医療事故調査制度
3. 通知等

(2) 医療安全施策 ～医療機関での取り組み～

1. 医療安全管理体制の整備
 - i. 医療法に定められた措置（医療法第六条の十二）
 - ii. 診療報酬における医療安全対策
2. 医療現場における医療安全推進のための取り組み
3. 医療安全における評価

(2) 医療安全施策 ～医療機関での取り組み～

2. 医療現場における医療安全推進のための取り組み
- 1) 組織で醸成する安全文化
 - ①「報告する文化」②「正義の文化」③「柔軟な文化」④「学習する文化」
 - 2) 看護実践における安全確保の取り組み
 - ・ 具体策：指示出し・指示受けの標準化、患者誤認防止、誤薬の防止、転倒・転落の防止、医薬品・医療機器の安全使用
 - 3) 医療チームによる安全確保の取り組み
 - ・ S 活動、KYT（危険予知トレーニング）
 - ・ 経営改善プログラム:目標管理やBSC（Balanced Score Card）、QC（Quality Control）、Q（Quality Indicator）等

- 4) 患者参加による取り組み
- 5) ネットワークによる安全確保の取り組み
 - ・ (1) 全国規模のネットワーク
 - ・ (2) 団体・地域などのネットワーク
 - ・ (3) 医療安全支援センター

2. 海外研修において、研修対象国の看護の状況と開発途上国で仕事をする看護職の役割と活動を理解できる

研修日程

研修場所	内容
1/8 NCGM国際協力局 成田→ベトナム(ハノイ)	オリエンテーション、事前課題発表
1/9 ハノイ着 Gia Lam 病院 Duc Giang 病院	Gia Lam 病院、Duc Giang 病院の見学 「医療の質・安全に係る組織内連携の実践」について Duc Giang 病院でのNCGM国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催準備
1/10 Duc Giang 病院	NCGM国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催 1日目(運営・参加)
1/11 Duc Giang 病院	NCGM国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」シンポジウム開催 2日目(運営・参加) 在外職員(企画調整員・健康管理員)より活動概要・キャリア説明
JICAベトナム事務所	
1/12 Bach Mai病院 ハノイ市内	Bach Mai病院の見学 看護職長期専門家より活動内容説明
ベトナム→成田	
1/13 成田着	

**国際展開推進事業
「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」**

- ・ 第4回「ベトナム病院の質・医療安全フォーラム」開催
病院の質と安全管理に関わる管理者たちが本邦研修に参加。その後各々の病院で実践し、その成果を発表し、互いに意見交換を実施



**国際展開推進事業
「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」
「質管理と患者安全フォーラム」開催時の看護師の活動と役割**

- ・ マネジメント
企画立案、会場準備（首書機器等も含む）、参加者との連絡調整、共同企業との調整、金銭管理、資料準備、通訳や翻訳の調整、時間管理
- ・ ファシリテーション
参加者が統一した認識ができるよう補足説明や活動で成果を上げている病院の状況を発表してもらおうよう促していた。
- ・ 情報収集、分析、評価
各発表内容や質疑応答の内容、フォーラム後の現地参加者との意見交換により事業への対象国の取組み状況や意識、課題を把握している。



1/9 Gia Lam 病院

第2レベル：省レベル(ハノイ市立)

- ・ 医療の質と安全管理に関する最近の取り組み
薬剤誤認防止（各病棟の医薬品棚に名前・使用期限・効能のラベル貼付・病棟薬剤師との連携）、インシデントレポート様式変更、再診患者用の機械導入、手術室安全管理（入室時のチェックリストの作成・申し送り台帳の作成、ガーゼカウムの徹底）、院内感染対策（手指衛生啓発、消毒液の配置、院内感染ネットワークの構築）
- ・ 医療の質と安全管理に関する課題
5Sを管理者以外のスタッフへ意識付け、全ての医薬品棚の整理保管、患者満足度向上のため患者へのサービス向上



1/9 Duc Giang 病院

- ・第2レベル：省レベル
- ・ベッド数：910床
- ・外来患者数：1200人/日
- ・入院患者数：平均入院患者人800人/日
- ・医師人、看護師・技師人950人以上



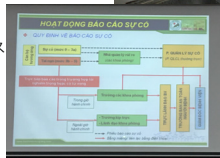
各病院の医療の質・安全管理に関するまとめ

1. 各病院は保健省からの通達を受けて、ベトナム独自の病院の品質基準（Hospital Quality Criteria）83項目を達成するために取り組んでいる
2. 各病院で「質と安全管理委員会」を設置
3. 安全文化の醸成に取り組んでいる（インシデントを起こした人を責めない、インシデントレポートを報告した人を褒める）
4. インシデントレポートの様式変更やオンライン化、報告を受けた後の迅速なフィードバックシステムの改良
5. 患者の待ち時間の軽減策（再来患者用の機械導入、床に標識を設置）
6. 5Sの徹底
7. 感染防止策実施
8. 患者安全への対策実施



1/9 Duc Giang 病院

- ・医療の質と安全管理に関する最近の取り組み
5SをSNSで広報、手指衛生遵守促進（院内感染対策のネットワークを整備、カメラ設置し遵守状況を確認、ICTが病棟を週に1回ラウンド、手指衛生方法の研修）、転落防止策（スロープにてすりを設置）、患者満足度調査を毎年実施、事故報告体制の整備（インシデントのレベル分類、インシデントレポート様式と報告体制の整備）
- ・医療の質と安全管理に関する課題
病棟の患者満足度が低い、職員のコンプライアンス向上、職員全員への周知、各科の連携



国際保健に関わる看護職の活動・役割 JICA 企画調整員、在外健康管理員

1. 企画調整員
業務内容：JICAの海外拠点において、ボランティアの活動支援、新規派遣に係る調査、関係機関との連絡調整等を担う
2. 在外健康管理員
業務内容：開発途上国に派遣されたJICA関係者（随伴家族も含む）が心身共に健康で生活し、業務を遂行できるよう支援する
3. 学び
臨床経験、海外ボランティア、大学院などのキャリア
様々な分野に携わる派遣員や現地の政府や病院の幹部との連携



1/12 Bach Mai病院

- ・第1レベル：中央レベル
- ・ベッド数：3200床
- ・外来患者数：200万人/年
- ・入院患者数：16万人/年、平均入院患者6000人/日
- ・医師700人、看護師・技師2000人以上



看護職長期専門家の活動の実際

1. 新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト
深谷果林
2. Cho Ray病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト
【患者安全・看護管理】
森山潤
3. 学び
1. 臨床経験が役立つ
2. 現場の人々のモチベーションを高める
3. 現場の人々と自分の仕事バランス
4. 言葉の壁



1/12 Bach Mai病院

- ・医療の質と安全管理に関する最近の取り組み
転倒防止マニュアルの作成、患者認識防止（リストバンドの使用）、手指衛生遵守促進（勉強会・ポスター）、手術安全チェックリストの作成、インシデントレポートをオンライン化、薬剤誤認防止（類似薬品をポスターで注意喚起、5S）、ポケットマニュアル作成
- ・医療の質と安全管理に関する課題
5Sを管理者以外のスタッフへ意識付け、専門知識の向上、コミュニケーション（看護師と患者）、チームワーク、安全文化の醸成が不十分



3. 海外研修終了後に、研修のまとめを行い、自己の学びを表現できる

国際保健に関わる看護職の活動・役割 (まとめ)

- プロジェクトを進めている
 - 事前調査・計画立案・実践・評価・修正・報告・課題提言
- 専門的知識を持って、コーディネートをする
- 政府や保険医療施設管理者など看護職以外の様々な業種と連携・調整を行う架け橋のような役割
- 相手国の主体性（オーナーシップ）を尊重
- 継続的に相手国だけで組織・運営できるように支援



学び・所感

- 佐藤
- 看護職といっても国際協力での活動の場は多岐にわたり、役割もさまざまである。自身の専門分野を獲得していることは重要だが、どの分野でも対応できる応用力や継続学習が必要だと感じた。
- 自分の国、病院の状況や取組を把握し、情報提供できる能力も必要だと感じた。
- 石井
- 相手国の文化・習慣を受け入れること、お互いの信頼関係を築くことの重要性を感じた。



参考・引用文献

- 国際医療協力局ライブラリー
 - <http://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/index.html>
- 厚生労働省 医療安全推進、医療の質評価指標
 - https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryuu/i-anzen/index.html
- 日本看護協会 医療安全
 - <https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/>
- 国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」
- JICA
 - 企画調整員 <http://www.joca.or.jp/homecoming/volunteer/>
 - 健康管理員 <https://www.jica.go.jp/recruit/health/index.html>



謝辞

看護職海外研修に際して橋本課長をはじめとして研修調整と引率をして下さった宮崎さん、その他の国際医療協力局の皆様、研修の機会を与えて下さった中山副看護部長、シフトを調整して下さいました師長さんに感謝申し上げます。

研修報告書

研修名： 平成 30 年度第 7 回看護職海外研修
派遣国： ベトナム社会主義共和国
派遣期間： 2019 年 1 月 8 日～ 2019 年 1 月 13 日
研修実施機関： 国際医療協力局
氏名： 石井 真仁子
要約： ベトナム社会主義共和国への医療の質・安全に関する国際展開推進事業について理解するため、現地の基礎情報・医療の現状等について調べた。また現地へ訪問し、専門家としての看護職の活動や役割について学び、自身の課題を見出す機会となった。

【背景】

国際医療協力局は、開発途上国の病院職員・管理者や日本人を対象に研修機会を提供し、保健医療分野の人材育成を行っている。本研修は開発途上国の基礎的知識の習得と、現地へのスタディツアーを通じて、国際的な視点を持って看護活動ができる看護師を養成するために開催された。

【目的】

海外研修を通して発展途上国の看護の状況と国際医療協力分野における看護職の役割や活動を理解し、自己の課題を探る。

【研修内容と成果】

1. 事前にベトナム社会主義共和国の基本情報・保健医療指標、日本での医療の質と安全に関するシステムや取り組みについて学習した。
2. 現地ではベトナム社会主義共和国への国際展開推進事業の「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」の取り組みの一つである第 4 回「質管理と患者安全フォーラム」へ参加し、フォーラムを開催・運営する看護師の活動と役割について学んだ。また JICA ベトナム事務所へ訪問し、企画調整員、在外健康管理員の看護職の方々と対談し、活動概要やこれまでのキャリアについてお話を伺った。他にも長期専門家として「看護教育」と「病院運営・管理」の事業を担っている看護師 2 名からも事業内容や成果等についてお話を伺い、これらの対談を通じて自身の課題や今後のキャリアについて見出すことが出来た。また病院見学では Gia Lam 病院、Duc Giang 病院、Bach Mai 病院へ訪問し、質管理と患者安全に着目して見学をした。
3. 様々な事業内容やそこへ携わっている看護職の役割・活動について学び、普段の病棟業務の経験や学びを、将来的に国際医療協力で活かすことが出来ると思った。そのため今後も病棟で患者の疾患・治療、係活動等で未経験の事があっても、積極的に関わり常に学ぶ姿勢を持ち続けたい。

【所感】

派遣員は常に相手国が主体であるという姿勢のもと、文化や性格・人柄を受け入れ、相手に適した方法でプロジェクトを進めており、プロジェクトを進めるにあたり、お互いに信頼関係を築くことが重要であると感じた。

【謝辞】

本研修を通じて、開発途上国での看護職の役割や活動について学び、自己の課題を見出すことが出来ました。研修の調整や引率をして下さった橋本課長、宮崎さん、その他の国際医療協力局の皆様、研修の機会を与えて下さった看護部長、看護副部長、師長に感謝申し上げます。

研修報告書

研修名：	平成30年度第7回看護職海外研修
派遣国：	ベトナム社会主義共和国
派遣期間：	2019年1月8日～2019年1月13日
研修実施機関：	国際医療協力局
氏名：	佐藤 紫乃
要約：	国内での事前学習でベトナムの経済文化、保険医療指標を調べ自国との比較をした。フィールド学習にてベトナムの看護の状況とベトナムで働く看護職の活動と役割を理解し、国際協力に携わる看護職は情報収集能力、応用力、表現力が必要だと学んだ。これらの学んだ内容から自己の課題を見出し報告会にて発表した。

【背景】

国際医療協力局では、国際的な視点から看護活動ができる看護職の養成のため国立国際医療研究センター病院と国府台病院看護職員を対象とした「看護職海外研修」を実施している。

【目的】

海外研修を通じて開発途上国の看護の状況と国際医療協力分野における看護職の役割と活動を理解し、自己の課題を探る。

【研修内容と成果】

1. 国内でベトナム社会主義共和国の基本情報や保健医療指標、医療の質・安全への取り組みと日本の医療の質・安全への取り組みの調べ、まとめる。
2. 国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携推進のための看護師のマネジメント能力強化事業」の第4回「ベトナム病院の質・医療安全フォーラム」への参加。Gia Lam 病院、Duc Giang 病院、Bach mai 病院の視察。ベトナムの JICA 事務所を訪問し企画調整員(高島恭子さん)と在外健康監理員(大場利優さん)へのインタビュー。看護職長期専門家(深谷果林さん森山潤さん)へのインタビュー。
3. 研修での学びをまとめ、自己の課題を明確にし、報告会にて発表する。上記の活動内容を通し、対象国の状況と自国の取り組みやシステムを事前に知る重要性和情報収集方法を学んだ。病院視察では現状を知ることができた。国際保健に携わる看護職の職域は幅広く、担っている役割も異なるが、誰もが自分の特徴を把握した上で、どの分野でも応用できる発想力や幅広い知識を持ち、そのための自己学習を継続していた。学びと自己の課題をまとめ発表することで、表現力とプレゼンテーション能力向上への一助となった。

【所感】

国際協力と聞くと対象国の状況にとらわれがちだが、日本の保健制度や病院の状況を理解していなければならないと感じた。今後は自身の看護の幅を広げるよう努めることに加え、日本の医療提供システムや病院の運営にも視野を広げ学習を継続していきたい。

【謝辞】

本研修を企画、調整し引率して下さった橋本課長、宮崎さんをはじめとした国際医療協力局の皆様と貴重な機会を与えて下さった看護部の皆様に心より感謝申し上げます。

研修評価

研修アセスメント結果（研修最終日に評価会を実施）

a: 非常にそう思う b: そう思う c: どちらとも言えない d: あまりそう思わない e: 全くそう思わない

研修内容の評価結果 5段階評価項目	a	b	c	d	e	回答理由および特記事項
研修 オリエンテーション	2	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 国際展開推進事業の内容やテクニカルレポートの内容について詳しく理解できた。 前回の海外研修に参加した研修員の発表スライドなど参考にすることが出来、事前学習をスムーズに進めることが出来た。 研修に向けた事前学習の必要性を十分に理解することができた。 プロジェクトの内容を理解するための一助となりフォーラムでも積極的に参加することができた。
5日間の海外研修は 適当か	2	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 病棟への影響も少なく、短期だからこそ1日1日を目的と課題を自分の中で明確にすることができ、密度が濃く充実した期間にすることができた。 移動時間や時差なども考慮すると実質3日間のため適当。
5年目以上は 参加基準として 適当か						<ul style="list-style-type: none"> 今回の国際展開推進事業が医療の質と安全に関する取り組みであったため、病棟の感染管理や医療安全の係活動で自分が行った経験が役プロジェクトの理解に役立った。 相手国は管理者がほとんどであるため、自分が今後管理者になった場合に、どの様に病院へシステムを導入し、会議を組んでいくかなど、とても参考になった。そのため5年目以上が適切であると思う。 管理的な視点が必要になるため、5年目以上だとリーダー等の経験値もありマネジメントの視点に着目し研修に参加できるのではないかと思う。 今後のキャリアプランを考える時期でもあり参考になりやすい時期だと思う。
語学能力は 参加条件に必要か						<ul style="list-style-type: none"> 通訳がいるため、特に問題はないと思う。 研修に参加したことで語学力の向上への意識が高まった。 研修では現地語や英語をあまり使用しなかったため能力は問わない方が良いと思う。
参加人数は						<ul style="list-style-type: none"> 病院見学や引率の職員の負担を考えると1～3人が適切であると思う。 事前学習や報告会などは2名くらいが共有しやすいと感じた。 2～3名であれば自分が気づかない部分への着目や、意見交換などメリットが大きいと思う。 4名以上だと短期間でまとめ作業に難しい部分が出てくるかもしれません。
目標達成は						役立った研修項目： <ul style="list-style-type: none"> 国際展開推進事業「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」フォーラムへの参加、JICA 在外職員・看護長期専門家の活動内容やキャリアについて、事前学習、病院見学 理由： <ul style="list-style-type: none"> 実際の準備、運営をフォーラムで見学し、看護職としての役割や特徴を学ぶことができた。 各看護職の生の声を聞くことで活動内容だけでなく、活動するための自己研鑽やコミュニケーションの取り方などを学ぶことができた。 事前課題によって、目標に沿った内容を現地でも着目して見学・質問することが出来た。 フォーラムへの参加、病院見学によって、ベトナムの実際の医療の質と安全に関する取り組みを理解することができた。
研修の構成で 不足していた点は						<ul style="list-style-type: none"> 現地に着いてから次の日の研修までに睡眠時間が短かった。

<p>研修での学びを 生かした自己の 課題への取り組みは</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国際協力の大前提の知識として、日本の法律や病院で行われているシステムなどを理解することが大切。 • 臨床での経験が必ず活かせる場があるため、しっかりと将来のキャリア設計をしながら日々の業務に当たっていきたい。 • 目の前のことにとらわれず、ボランティアや興味のない分野の活動などの様々な活動に取り組む。 • 管理の視点を持ち、病院の組織運営やマニュアルについて情報収集し学びを深める。 • 語学学習をする。 • プレゼン能力を高める。
--	--

5S 活動 in ベトナム ～異文化を受容した国際協力方法～

16 階特別個室病棟 石井 真仁子

「日本人はキレイ好き」これは多くの外国人が日本に来て感じることでとされています。日本で始まった 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動も職場環境の維持改善を目的として多くの日本企業で取り入れられ、現在では JICA などを通じて開発途上国でも活用されています。

今回の研修では Gia Lam 病院、Duc Giang 病院、Bach Mai 病院を見学し、どの病院でも廊下や病室、汚物室、手洗い場もきれいに整備・管理され 5S が徹底されている印象を受けました。背景として、ベトナムでは 2013 年に省令で、病院医療のクオリティ・マネジメント課の設置が推奨されたこと（Ministry of Health, Vietnam. Circular No.19, 2013/TT-BYT. Hanoi, 2013 July 12）、2015 年 9 月には、保健省から全ての省病院にクオリティ・マネジメント課を設置するよう通達が出されたことなどが挙げられ、多くの病院が国際医療協力局などの支援を受けクオリティ・マネジメントへの取り組みが強化されていった経緯があります。

5S が根付いている印象のベトナムの病院ですが、日本とベトナムでは 5S を徹底する大変さが違うのではないかと思います。なぜなら、私は NCGM でベトナム人の患者が多く入院している病棟に所属し、ベトナムと日本の清潔への感覚や文化・習慣の違いに驚くことが多いからです。例えば、ベトナム人の患者達は病室内では裸足で過ごしたり、床にごみをそのまま捨ててしまったり、付き添いの人は専用の付き添いベッドを使用せず、直にフローリングに布団を敷いて就寝したりすることがあります。

このような文化・習慣が違う中で、ベトナムの病院で 5S が徹底されている様子を見て、国際医療協力局の長期的な支援活動が、それらに貢献しているのであろうと推し量ることが出来ました。

実際に国際医療協力局から長期派遣されている方々のお話を聞いたり、テクニカルレポートを読んだりして、5S などのシステムを導入し展開するにあたり、本邦研修では一方的な講義だけでなく、主体的な学習ができるようグループワークを組み込み、研修員同士が互いに意見交換をする場や、研修員自身の病院でシステムを導入し展開する際の行動レベルまで考えてみるといった、アクティブラーニングを積み重ねていったことがわかりました。また現地でも常に相手国が主体という姿勢のもと、ベトナムの文化・習慣を尊重しながら支援したことで、ベトナム人のみで継続した管理運営が出来ていることに繋がったのだと思いました。

参考文献：国立国際医療研究センター国際医療協力局テクニカルレポート



整備・清掃が行き届いた手洗い場



分別が行き届いた医療廃棄物



整理整頓されたカルテ

みんなが実践できる手指衛生実践に必要なことは！？

～視察を通して改めて感じたこと～

12階東 ACC 病棟 佐藤 紫乃

今回の研修では「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」の「質管理と患者安全フォーラム」に参加しました。それに関連して、医療安全という幅広い分野の中で院内感染対策に着目し、感染対策の基本である「手指衛生」を取り上げたいと思います。

Gia Lam 病院、Duc Giang 病院、Bach Mai 病院の3病院を視察し、どの病院でも手指衛生促進の為にポスターや手洗いの方法が壁に掲示され、病室の入口、ICUの患者さんのベッド脇、外来採血室、洗面所等には擦式手指消毒用アルコール製剤のボトルが配備されていました。

ポスター掲示や感染対策チームのラウンドなどの啓蒙活動は実施されていましたが、ペーパータオルの不備や動線の問題が見て取れ、手指衛生の重要性は理解し意識付けはしているものの、現場での実践的な行動には至っていない様で、そのギャップを感じました。

その背景には、ベトナムの医療状況として、看護師不足の要因が大きいのではないかと思います。私のNCGMでの臨床経験上、病院内で手指衛生の普及活動の中心的存在として、看護師の役割は大きいと思います。ベトナムではその役割を担う看護師不足の為に、現実的でより効果的な手指衛生が行動に移されることの障害の一因になっているのではないのでしょうか。

看護師の業務が繁忙になるとケアが優先され、手指衛生への意識が低くなりがちなのはどこの国でも、どの病院でも同じだと思います。看護師が、どのような状況でも手指衛生が実施できるためのモノの配備と継続教育、啓蒙活動の中心的存在となることが大切であることを、視察を通して改めて感じました。

アルコール手指消毒剤は私のナース服のポケットにいつも付いており、病棟内の必要な場所にも効率よく配置されています。また、手指衛生を促す標語が掲示されており、業務前には「一処置 1push」をスタッフ全員で唱和しています。これにより無意識にいつでもどこでも手指衛生を実践できているのだと改めて認識しました。このようなNCGMでの取り組みは、視察した病院でも有効に活用できる部分ではないかと感じました。

日本とベトナムでは文化や経済状況も異なりますが、両国での取り組みを共有し、お互いに良いところを見習うことで、現場へ、そして患者さんへと還元していけるのではないかと思います。



ベッド毎と病室入口壁に設置された設置された手指消毒用アルコール製剤



外来採血室の擦式手指消毒用アルコール製剤



手指衛生のタイミングポスター

研修コースリーダー総括

国際医療協力局では看護職への研修として、国際保健医療協力実務体験研修と看護職海外研修の2コースを実施しています。前者では主に国際医療協力局に勤務する職員の国内業務を理解し、後者は海外で実施されているプロジェクト等に局員と同行し、保健医療に関する国際協力活動を理解し、自身のキャリア形成に活かす為の研修となっています。

国際保健医療協力には様々な形式があり、国際医療協力局が行うプロジェクト等の活動は主にODA（政府開発援助）です。それらは直接的な医療活動を行うわけではなく、実際には管理・調整・交渉・ファシリテーションなど、臨床業務とは大きく異なるもので、イメージされにくい部分があると思います。今回の研修では、その様な実際の活動を体験すると共に、研修員の現在の臨床経験や病棟でのリーダー役割・教育的立場などがどの様に活かされるのか、といった視点を養うことが出来たのではないかと思います。

今回は主に、国際展開推進事業で実施している、ベトナムでの「医療の質・安全に係る組織内連携促進のための看護師のマネジメント能力強化事業」において、現地でのフォーラムへ参加すると共に、開催の準備・運営に関わって頂きました。研修員の2人には、渡航前に事前学習として、ベトナムの保健指標をはじめ、看護教育や医療の質・安全への取り組み、また日本の医療安全に関する政策・NCGMでの取り組みを調べて頂きました。それらは、事業背景を理解すると共に、国際保健の現場で対象国の課題に介入する為に必須であり、その重要性を理解して頂くと共に、今後の自己研鑽や日々の業務へ取り組む視点に繋がったのではないかと思います。

本研修に参加したことで、漠然としていた国際保健医療協力の実際の活動が少しでも具体化され、その為には何が必要なのか、本当に自分やりたいことなのか、などの学びがあり、どの様な形で将来のキャリア形成の一助となれば幸いです。

研修実施に伴い、看護部の皆様、参加者を送り出して頂いた病棟の皆様、そして、研修実施にご協力頂きました関係者の皆様に感謝いたします。

第7回看護職海外研修

コースリーダー 宮崎 一起

研修担当

人材開発部 研修課長 橋本 千代子

研修係長 珍田 英樹

連携協力部 看護師 宮崎 一起

2018 年度
第 7 回国際保健医療協力実務体験研修
第 7 回看護職海外研修
報告書

発行
2018 年 3 月

国立国際医療研究センター 国際医療協力局
〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
TEL: 03-3202-7181 / E-MAIL: info@it.ncgm.go.jp
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/



National Center for Global Health and Medicine
Bureau of International Health Cooperation
国立国際医療研究センター 国際医療協力局
<http://kyokuhp.ncgm.go.jp/>



9784909675637